

令和3年度 国際機関等への拠出金等に対する評価シート

総合評価	評価基準1	評価基準2	評価基準3	評価基準4
B	b	b	b	N/A

■ 拠出金等の概要

1 拠出金等の名称	
アセアン留学生交流等拠出金	
2 拠出先の名称	
アスジャ・インターナショナル	
3 拠出先の概要	
2000 年4月、東南アジア諸国連合（ASEAN）元日本留学生評議会（ASCOJA：ASEAN 諸国の元日本留学生会の連合体）の日本側カウンターパートとして設立された（事務所は東京）。日本と ASEAN 諸国間の友好協力関係の中核的担い手となる親日派・知日派の育成を目的とする。2021 年5月現在、ASEAN10 か国と日本の関係組織等が参加している。	
4 (1)本件拠出の概要	
本件拠出は、ASCOJA から推薦された国費留学生を対象とする交流事業及び ASEAN 各国におけるシンポジウムの実施に充てられる。元日本留学生会としては世界最大の団体である ASCOJA と協力し、ASEAN 地域の人材育成、日本との交流強化、元日本留学生のフォローアップ、元日本留学生間のネットワークの強化を行うことで、ASEAN 地域における親日派・知日派の一層の増加を図り、ひいては日本と ASEAN 諸国の更なる関係強化を図る。	
4 (2) 本件拠出の形態	☒ コア拠出 ☐ ノンコア拠出
4 (3) 本件拠出額の規模（予算額、拠出率、拠出順位等）	
令和2年度当初予算額	83,104 千円
日本の拠出率：100%。日本のみが拠出する、ノンイヤマーク拠出。	
令和3年度当初予算額	88,642 千円
日本の拠出率：100%。日本のみが拠出する、ノンイヤマーク拠出。	
5 担当課室・関係する主な在外公館	
外務報道官・広報文化組織 人物交流室	

評価基準1 本件拠出を通じて達成を目指す日本の外交政策目標への貢献度

1-1 (1) 本件拠出を通じて達成を目指す外交政策上の目標（外交戦略、重要政策、重点分野等）
本件拠出金は、外務省政策評価体系上、「基本目標Ⅲ 広報、文化交流及び報道対策」、「施策Ⅲ－1 内外広報・文化交流・報道対策」、「個別分野4 国際文化交流の促進」、「測定指標4－3 人物交流事業の実施」の下に設定された中期目標「人的交流を通じて、各国に親日層・知日層を形成し、外交活動に活用する」ことを達成するた

めの達成手段の一つと位置づけている。(令和2年度外務省政策評価事前分析表 (https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100097982.pdf) 295～325 ページ参照)
1-1 (2) 上記 1-1(1)の目標を達成する上での本件抛出の有用性・重要性(その他手段との相互補完性、比較優位性、代替不可能性等を含む。) ASEAN との留学生交流への日本の貢献(任意拠出金)を通じ、人的交流を通じた親日派・知日派の形成に主体的に関わり、それらの人材を外交活動に活用している。 ASCOJA には、インドネシア国会副議長、ラオス教育スポーツ大臣、ラオス保健大臣、タイ駐日大使、カンボジア王立プノンペン大学理事長等、ASEAN 各国の政財官界の重鎮が所属し、2021 年1月時点の会員総数は5万2千人を超えており、アスジャ・インターナショナル(アスジャ)への拠出を通じた ASCOJA 支援は外交資産である元日本留學生のネットワークの維持・活性化に貢献している。シンポジウム開催等を通じて、元日本留學生が日本とのつながりを再認識し、ネットワークを更に強化するとともに、元日本留學生以外の対日理解を促進し、親日派・知日派を増やす機会を提供している。 ASCOJA は各国に所在する日本の在外公館とも協力関係にあるが、アスジャは ASCOJA が推薦する留學生を日本において支援することで、在外公館の活動を補完する関係にある。また、2000 年以来 20 年以上にわたりアスジャが築いてきた ASCOJA との信頼関係により、ASEAN との留学生交流においてアスジャは代替不可能なものとなっている。アスジャが育成した ASEAN 出身の留學生は帰国後 ASCOJA の活動を支えている。
1-2 抛出先の意思決定プロセスにおける日本の意向を反映できる地位等の維持・確保の状況 アスジャの意思決定機関である国際理事会に際しては、審議事項につきアスジャ事務局から日本政府に事前に確認が求められており、日本政府の意向を確実に反映させてきている。また、上記国際理事会に出席する日本理事は、日本政府が指名することとなっており、同理事を通じて日本の発言力・影響力を確保している。加えて、外務省員もオブザーバーとして国際理事会に参加しており、必要に応じて日本政府の意向を表明する地位・機会を確保している。
1-3 抛出先との間での要人往来、政策対話等 ASCOJA が毎年各国持ち回りで開催する ASCOJA 総会の第 25 回総会が 2019 年 10 月、ラオス・ビエンチャンにおいて、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向けた日本と ASEAN の協力をテーマに開催され、アスジャもテーマの選定段階から当日の運営に至るまで総会の成功に向け積極的に関与した。日本政府からは若宮健嗣外務副大臣が出席し、同総会開会式でのスピーチにおいて、ASCOJA による日 ASEAN 関係強化への貢献をたたえと共に、2020 年東京大会を契機としてスポーツ分野においても日本と ASEAN の協力関係が深まることへの期待を表明した。若宮副大臣は同総会に出席したセンドウアン・ラオス教育・スポーツ大臣や各国の ASCOJA 幹部とも会談や意見交換を行い、日本と ASEAN の更なる関係強化に資する行事となった。
1-4 日本政府以外の日本関係者(日系企業(調達先企業を含む)、日本の NGO・NPO、地方自治体、大学、個人資格の委員等)による抛出先への関与及び同関係者にとっての本件抛出の有用性・重要性 アスジャは、2014 年以来、公益財団法人東芝国際交流財団と共催で毎年1回、ASCOJA が推薦する高校生と日本の高校生の8日間の交流事業を実施。日本と ASEAN の高校生約 20 名と約 10 名のアドバイザーが参加している。プログラムを通じて相互理解を深めるとともに、持続可能な社会を創るためのアジアの長期ビジョンを共同で構想している。プログラムに参加する ASEAN の優秀な高校生を選定するにあたってはアスジャがこれまで ASCOJA と築いてきた協力関係が活用されており、東芝財団からも必要不可欠な共催相手として評価を受けている。 アスジャは、日本の大学生、小中高生と ASEAN からの留學生の交流も進めており、小学校や中学校を訪問し留學生による ASEAN 諸国の文化紹介等を実施している。特に、毎年夏期休暇期間に3泊4日で実施するアセアン国費留學生と日本人大学生との国際交流ワークショップは、互いの国の文化や日本と ASEAN の将来の課題、国際協力

について英語による意見交換を行い、相互理解を深める機会となっており、参加した大学生から高い評価を得ている。
1-5 1-1(1)外交政策目標に向けた本件拠出の貢献度に係る総括
アスジャはコロナ禍の状況においてもオンラインによる事業展開を積極的に実施し、工夫を重ねながら日本とASEANの留学生を中心とした人的交流の一層の拡大・深化に貢献している。 また、アスジャのプログラムを修了した留学生は親日家となり、日本企業への就職、日本の大学の上位課程への進学、帰国後、日本語教師として後進を育成する者が多く、2000年の本件事業開始以降、2021年までに本件プログラムを修了した者は197名であるが、このうち2020年度末時点で日本企業在職中の者が51名、日本語教師として活躍中の者が18名となっており、こうした人材が日本とASEANの協力関係強化に貢献している。加えて、本拠出を通じて、アスジャがASCOJAの活動支援を行うことで、ASCOJAという外交アセットに日本が継続的に関与し、効果的なインプットを行うことが可能となっている。シンポジウム開催等を通じて、日本政府、研究機関・企業との連携、ネットワーク形成の促進に貢献している。 以上を総合的に勘案すれば、人的交流を通じて、各国に親日層・知日層を形成し、外交活動に活用するという目標に対し本拠出は相応の貢献をしている。

評価基準2 国際機関等拠出先の活動の成果

2-1(1)【コア拠出分のみ】拠出先の戦略目標
ASEAN から優秀な留学生を受入れ、日本の大学院における教育研究を支援するとともに、留学生に日本語習得及び日本文化・日本人を理解する機会を提供し、将来の日本とASEANとの架け橋となるリーダーを育成すること。 人材交流、ビジネス交流等のシンポジウムを開催することにより、日本とASEANにおける元日本留学生のネットワークを強化するとともに、日本の関心事項に関するインプットを行うこと。
2-1(2)【コア拠出分のみ】上記2-1の戦略目標達成のための拠出先の取組及びその成果
本拠出金に関し、特に2020年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、人の移動・交流が大きな制約を受け、これまでアスジャが国内外で実施してきた事業の例年通りの実施が困難になったところ、オンラインも活用しつつ事業を推進する工夫を重ねながらプログラムが実施された。当初春から夏にかけ予定していた交流事業の中止・延期が続いたが、2020年8月には現役の留学生が参加するオンライン交流会を4回実施し、日本とASEANの文化の違いに関する議論を行った。同年10月には、新型コロナウイルス感染症のために9月に渡日した新規留学生4名のオリエンテーションが開催され、事務局スタッフや先輩の留学生からアスジャ設立の趣旨や、20年間の活動内容、将来留学生に期待される役割等につき説明し、これから日本での留学を開始する学生にとって貴重な機会となった。同月末からは、日本の地方の産業や文化を学ぶべく、感染症対策を徹底した上で、新潟県三条市、長岡市、長野県長野市、山梨県北杜市を訪問する修学旅行を実施し、約40名の留学生が参加した。訪問先では海外販路の拡大に取り組んでいる企業や、海外進出中の企業も訪問し、留学生が将来日本企業に就職する際に求められる資質等を聴取した。同年12月には、10月から11月にかけて渡日した新規留学生10名のオリエンテーションが実施され、10月に実施されたオリエンテーション同様、新規留学生にとり貴重な機会となった。同月には、留学生の代表14名が国際理解教育の一環として、都立千早高等学校を訪問し、日本の高校施設や授業の内容に関する説明を受けるとともに、和太鼓の演奏体験を行った。留学生にとって日本の学校教育に関する知識を深める機会となるとともに、日本の高校生にとっても異文化を肌で感じる機会となった。2021年3月にはシンガポールの元日本留学生会と東アジア地域包括的経済連携(RCEP)に関するオンライン・シンポジウムを開催したが、アスジャからの要請を受け外務省経済局長が基調講演を行った。元日本留学生をはじめとする観衆に日本の立場を理解してもらう上で有

意義な機会となった。ASCOJA はアスジャがコロナ禍においても上記のような事業を継続して行っていることを高く評価している。
2-2 【ノンコア拠出分のみ】ノンコア拠出による実施事業の目標、取組及びその成果
2-3 評価基準2関連の日本側の取組(その結果としての拠出先の対応を含む)

評価基準3 国際機関等拠出先の組織・行財政マネジメント

3-1 本件拠出金に係る決算報告書等の概要	
3-1 (1) 会計年度	当年4月から翌年3月
3-1 (2) 直近2年度分の決算報告書の受領(先方公表)年月	2019 年7月 (日本の 2018 年度分) 2020 年7月 (日本の 2019 年度分)
3-1 (3) 報告書未受領の場合、その理由	
(参考)次回報告書の受領予定時期等	2021 年7月頃(日本の 2020 年度分)
3-1 (4) 決算報告書(及び外部監査報告書)等の要点	
2019 年度末決算においては、予算額 73,871 千円に対し、決算額 56,751 千円となったが、これは主に新型コロナウイルス感染症により交流事業やアスジャ設立 20 周年記念事業が中止となったことにより当初予定したとおりの事業が実施できなかったことによるものである。2020 年度末決算においては、予算額 75,937 千円に対し、決算額 48,311 千円となったが、これは前年同様、新型コロナウイルス感染症により交流事業や前年度から延期されたアスジャ設立 20 周年記念事業が中止となったことにより当初予定したとおりの事業が実施できなかったことによるものである。本件拠出は、独立行政法人日本学生支援機構東京日本語教育センター内に設けられているアスジャ事務局が策定し、例年3月に開催される国際理事会で承認されたプロジェクトに充てられる。プロジェクト終了後、上記国際理事会の機会に報告書が作成され、拠出国である日本政府に提出される。 毎年外部の業者による監査が行われているが、外部監査報告の中で、決算報告書が正確かつ適正に作成されている旨確認されており、本拠出について特段の指摘はされていない。	
3-2 本件拠出事業を巡る組織・行財政マネジメント(ガバナンス、コンプライアンス、リスク管理等を含む。)(コア拠出の場合、拠出先機関全体にかかるマネジメント。コア拠出でない場合、拠出事業にかかるマネジメント。)	
3-2 (1) 組織・行財政マネジメントの更なる改善や課題克服に向けた主要な取組の状況(改革ビジョン・戦略・実施計画等の策定状況、改革計画等の実施状況と成果等)	
【人事関連】 2000 年の発足以来、同一人物が事務総長を務めていたが、2019 年度末をもって退職し、2020 年4月から新しい事務総長が就任した。下記の会計手続に関する内規の改定等の整備を進めている。 【予算関連】 予算執行にあたっては、相見積もりをとることを徹底するなど、コスト効率の向上に努めている。また、会計手続に関する内規の改定を進めている。 【調達関連】 調達にあたっては、相見積もりをとることを徹底するなど、コスト効率の向上に努めている。	
3-2 (2) 組織・行財政マネジメントに関連するいわゆる不適切事案(国際報道等組織内外から提起された疑義等を含む)の概要・対応ぶり。	

3-2 (3) 上記 3-2 (1)及び 3-2 (2)の課題克服等に向けた日本側の働きかけや取組
懸念や問題点、要望等があれば、国際理事会等の機会に申入れを行っているほか、平素から事務局と緊密にやりとりを行い、対処するようにしている。2000 年の発足以来同一人物が事務総長を務めていたため、後任を選定することが課題であったが、外務省から理事会に働きかけを続けた結果、新事務総長が選定され、2020 年4月に就任した。

評価基準4 日本人職員・ポストの状況等

4-1 日本人職員・ポストの状況(専門職以上の職員を対象。原則各年 12 月末時点。)						
(1) 日本人職員数の増減						
過去3年の日本人職員数				☐ 拠出金の使途範囲内(拠出先の部局等)		(参考)
				☒ 拠出先全体		全職員数
2016	2017	2018	平均値	2019	日本人職員の増減	2019
-	-	-	-	-	-	3
2017	2018	2019	平均値	2020	日本人職員の増減	2020
-	-	-	-	-	-	3
備考	アスジャの正規職員は全て日本人。100%日本の拠出金で運営される組織であるため、正規職員は全て日本人となることを今後も維持する。					
(2) 日本人幹部職員数の増減						
過去3年の日本人幹部職員数						
2016	2017	2018	平均値	2019	幹部職員数の増減	
-	-	-	-	-	-	
2017	2018	2019	平均値	2020	幹部職員数の増減	
-	-	-	-	-	-	
備考						
(3) 上記 4-1(1)及び 4-1(2)の定量測定に加え、相応の考慮に値すると考え得る定性的な状況(ASG 相当以上の重要ポスト獲得状況、日本人職員の採用・昇進に向けた拠出先及び日本側の取組状況等)						
4-2 本件拠出金を基準4の評価対象としない場合(「N/A」とする場合)、評価対象としない(「N/A」とする)合理的理由						
100%日本の拠出金であり、正規職員は全て日本人であるため、増強の対象とならない。						